

ナシ「豊水」における収穫期直前の高温は地色の抜けに影響するため“みつ症”の発生に注意を要する

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹—ナシ—生育診断予測

2 担当者名

佐藤寛人、山本晶登

3 要旨

近年、夏季の気温が平年と比較して高い年が続いていることから、高温による果実品質への影響を調査したところ、ナシ「豊水」において収穫期直前（満開後 121～140 日）の平均気温が高く推移すると果皮中クロロフィル含量が多くなる傾向が見られた。夏季高温下では、地色の抜けに日数を要するので、収穫遅れによるみつ症の発生に注意が必要である。

(1) 収穫期直前（満開後 121～140 日）の平均気温は 1996～2025 年の観測値、満開後 125～140 日の果皮中クロロフィル含量の平均は 1996～2025 年の成熟調査結果を用いた（図 1）。

(2) みつ入り指数は 1996～2025 年の収穫果の品質調査結果を用いた。近年はみつ入り指数が上昇傾向にあり（図 2）、果皮中クロロフィル含量の変化が少ない年は収穫が遅れ、みつ症を助長する可能性も考えられることから、収穫前には食味や品質をよく確認し、適期収穫に努める必要がある。

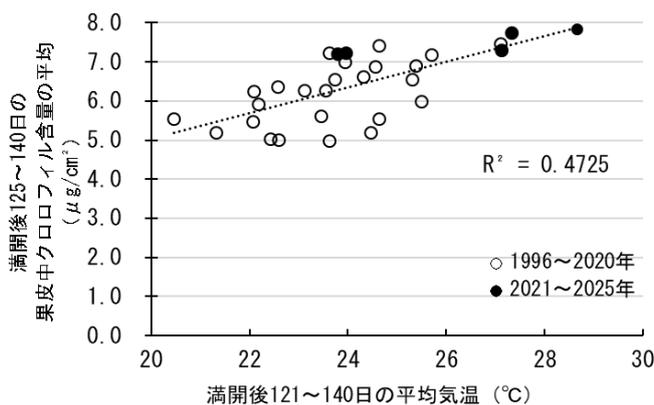


図 1 平均気温と果皮中クロロフィル含量の関係

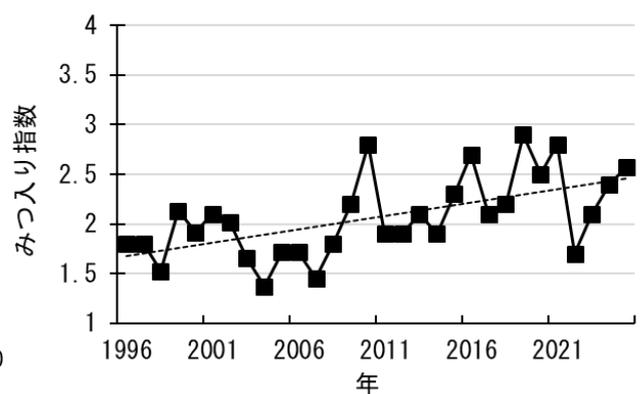


図 2 収穫果のみつ入り指数の推移
注) みつ入り指数は 1 (軽度)～4 (重度)

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和 3～7 年度

(2) 研究課題名 果樹の生育予測技術及び生育障害対策技術の確立

5 主な参考文献・資料

(1) 茨城県農総セ園研, ナシ「豊水」のみつ症重症発生率予測, 令和 2 年度技術情報